

〔柳營譜略〕乾東照大權現宮

寶臺院殿稱西郷局於桐之方、台德公忠吉卿之御母堂、

長勝院殿稱小督局於万方、秀康卿之母堂、

〔以貴小傳〕小督の局名はおまんの御方、永見志摩守小野吉英が女にて、第二の御子結城どの、徳

川秀御母うへなり、

〔忠利宿禰記〕明曆三年七月八日、今夜御局おつるに、名を右近と被下、仰渡大夫典侍殿也、珍重、

〔牟山紀聞三〕ふるき女の名

伊勢齋宮寮頭藤原相通といひしもの、妻を藤原の小忌古曾と云けるよし、小右記に見えたり、

水戸城下吉田社の文書のうちに、字男と云女の名あり、假名には、あさをとこと書たり、今の世に

ては、おかしき名なるべし、

〔續日本紀〕元明和銅七年十一月戊子、大倭國略中有智郡女四比信紗、并終身勿事、旌孝義也、

〔續日本紀〕孝謙天平勝寶元年四月甲午朔、授從四位上藤原朝臣吉日從三位、從五位上藤原朝臣袁

比良女、藤原朝臣駿河古並正五位下、无位多治比真人手婆賣、多治比真人若日賣、石上朝臣國守、藤

原朝臣百能、藤原朝臣弟兄子、藤原朝臣家子、大伴宿禰三原佐伯宿禰美努麻女、久米朝臣比良米並

從五位下、

〔日本後紀〕八桓武延曆十八年正月乙丑、典侍正四位上和氣朝臣廣虫卒、從三位行民部卿兼攝津大夫

清麻呂姉也、

〔奥儀抄〕五人名

寵女の名也、或人云、これはうつくどよむかの人かたちのめでたくて、君のおぼえにてはべりければ、うつくどよむかいか、かくべきと議しけるに、おぼえなるによりて、寵とかきてうつくどよむ